

7月の吾も紅は、悲喜こもごもでした。

まず7月1日。利用者Aさんの可愛がっている地域猫“ウメ子”が一匹の子猫をくわえてきました。1匹、そしてまた1匹…とAさんの住んでいる和室には次々と生まれたての子猫が運ばれ、ついに4匹の子猫が！まだ目も開いていない子どもたち（+ウメ子）をさすがに追い出すこともできず、ウメ子一家は授乳が終わるまで居候することになったのでした。

猫たちがやってきた頃、かつてより「ターミナル期」に入っていたJさんの容体が悪化しました。Aさんと交代して和室に移ってきたJさん。こうして終末期のJさんと猫一家の奇妙な同居生活が始まることに。

しかし、上手いこといくもので、Jさんは大の猫好き。息が苦しそうで意識もうろうの中、ネコの「ニャー」という声にはっと目を覚まし、「にゃんこちゃん！」と笑顔になるのでした。ウメ子、えらいぞ！

また和室はリビングに接しているため、色々な人が常にJさんの様子を見に来ます。仲の良かったSさんは付きっきりで看病し、水分を口に運んであげたり、話しかけたり。両親を看取ったというBさんも、傍について優しく身体をさすります。

お隣のI先生が来るとJさんは大喜び。胸の音を聴き、脈を取ってもらい「先生ありがとうございます」と必ずお礼を忘れません。

皆が体操していると、Jさんもこちらを見て寝ながら手足を動かしていました。時々Jさんが苦しくなると、Yさんが心配して「これを食べさせてあげて」と自分のご飯を持って行ったり。いつぞやの夜勤の時など、Jさんの息が止まりそうになった傍でYさんとそれを支えた夜勤者がともに転び、それを見たJさんの息が吹き返したという、落語のようなできごともありました。

さて、7月の目標は「夏を楽しむ」。職員が1人ひとつ、夏のイベントを考えます。まずはSさん企画で考古館に「古代ハス」を見に行きました。利用者Tさんが新聞で見て「ぜひ行きたい」と言われたのです。モネの庭をイメージしていたため少しがっかりしたようですが、ハスをこんな近くで見たのは初めて！と言われていました。考古館の方も親切にご配慮くださったそうです。

七夕にはアンジュールにお邪魔して、職員によるペープサートと演奏を聴きました。生ピアノの音色に利用者Bさん涙を浮かべていました。

Mさん計画はかき氷。食後のコーヒーの代わりにデザートとして練乳や小豆をかけて提供します。ただ、あまりに忙しすぎて「食べたい人はセルフサービスをお願いします！」…ということに。（さすが吾も紅。）一生懸命にハンドルを回し、食べたい量の氷をかいて、トッピングもお好みで。回せない人の分もできる人が作ってあげたり、これはこれで、楽しくできたのでした。寝たきりのJさんの口にSさんがかき氷を運ぶと「おいしい！」とにっこり。

スイカ割りはTさん企画。大玉を求めて八幡浜まで行ったとか…。1人ずつ目隠しして市内を振るいます。最後はKさんが一刀両断！！皆さんその場でいただきました。大きなスイカに大満足。

U君計画流しそうめん。今年は樋を多く使い、部屋の端から端に流します。

「はじまりますよー！」の掛け声にスタンバイした面々。普段歩行器を使って洋々歩いている人もなぜか箸とお椀を握って手放しで立つことができ、我さきとそうめんをすくう姿、圧巻です。別名そうめんバトルロワイヤル。この戦いが楽しみで、毎年開催しています。

Sさんは「夏季吾も紅オリンピック」を計画。うちわ卓球などいくつかの競技の後、「ピターニャ」とい

うくす玉を割ります。実はこの中にお菓子が詰まっている、ということを知って途端に光る皆さんのまなざし。「危ないから一列になって」という制止を振り切り、祭りのように狂喜乱舞したお年寄りたちがこれでもかと玉を投げつけ、お菓子を奪い取ったのでした。(結局バトルロワイヤル…)

T君企画は、「うなぎのかば焼きづくり」。七夕様の短冊に「ウナギが食べたい」という声があったため、アウトドア大好きなT君が土鍋と七輪を使ってうなぎを焼く提供することに。大きなうなぎに高まりゆくテンション。Jさんも起き上がってウナギをパクリ！満面の笑顔でした。あつという間に5尾のうなぎは消えていき「おいしかった〜」の声。

栄養、水分、睡眠、運動。この四つをしっかりと取って、みんなで夏を乗り切りましょう！



